

科目名	成人・老年看護方法Ⅵ (臨床技術) Adult・Gerontological Nursing Ⅵ		担当教員 (研究室番号)	関根由紀 (504) 長谷川智之 (302) 清水律子 (506) 田端真 (308) 竹村和誠 (308) 岡根利津 (308) 山本奈津美 (308)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修 年次	3 年次 前期	科目 区分	専門科目・生涯看護学		選択 区分	必修	単位数 (時間)	1 (30)	授業 形態	演習	科目等 履修生	否
											オープンクラス	否
科目 目的	成人期および老年期にある対象者の生命危機、術後回復の促進、そして健康上の課題を解決するために必要な看護技術の修得と態度を身に付ける。また、対象者の病態や状態に応じた看護実践に必要なフィジカルアセスメント能力を修得する。											
ディプロマ・ ポリシー (DP)	主要なDP	F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。(技能・表現)										
	関連する DP	A 人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職者としての倫理観に基づいて行動することができる。 (姿勢・態度) B 人々の生活に根差した看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解)										
到達 目標	1. 経管栄養法を受けている人の観察および嚥下機能が低下している人の嚥下評価、食事介助をすることができる。 2. 輸液の準備、管理、観察をすることができる。 3. 創傷処置の方法、ドレーン管理の留意点を理解し、創部の観察およびドレーン管理を実施することができる。 4. 一次救命処置 (BLS) および救命処置が必要な人への援助を実施することができる。 5. 転倒転落を予防するための援助を実施することができる。 6. 呼吸療法 (酸素吸入療法、口腔内、鼻腔内、気管内吸引) の方法と留意点を理解し、実施することができる。 7. 術後初回離床時の観察および留意点を理解し、実施することができる。 8. 事例に適したフィジカルイグザミネーションを行い、アセスメントすることができる。											
成績評価方法 (基準)	筆記試験40%、技術演習32%、事前課題28%											
再試験の有無と 基準等	科目の可否結果で不合格となった者は、当該学生からの申請により再試験を実施する。 再試験は、筆記試験とする。											
教科書	ヘルスアセスメント, 南江堂											
参考書等	看護がみえる③ フィジカルアセスメント, 医療情報科学研究所 適宜紹介する。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と 学生への期待	本科目は、成人期および老年期の看護において必要な臨床技術と事例に応じたフィジカルアセスメントを習得し、看護実践力を高めます。演習をとおして対象となる人の心身の状態に適した看護を考え、看護専門職者として自律と責任ある態度も身に付けてください。履修生の主体性を期待します。											
備考	先修条件：基礎看護技術Ⅰ～Ⅳ、看護実践の思考、成人看護学概論、老年看護学概論、成人・老年看護方法Ⅰ～Ⅲの単位を修得している。											
回	学習項目				学習内容				主担当 教 員	授業 方法		
1回	オリエンテーション 摂食・嚥下障害のある人への援助 嚥下機能評価と食事介助方法				嚥下障害のある人に対する嚥下機能を評価する方法や食事介助を学ぶ。				清水 他	演習		
2 回	摂食・嚥下障害のある人への援助 経管栄養法				栄養障害の弊害と栄養状態のアセスメントについて学ぶ。 摂食・嚥下障害により経管栄養法を受ける人の観察、栄養注入、 薬剤の投与方法学ぶ。				清水 他	演習		
3回	輸液管理が必要な人への援助 点滴管理				点滴静脈内注射および中心静脈カテーテル挿入の準備、管理、 観察について学ぶ。				田端 他	演習		
4回	輸液管理が必要な人への援助 医療機器 (ポンプ、シリンジ)				輸液ポンプおよびシリンジポンプの基本的な操作、観察、留意点 を学ぶ。				田端 他	演習		
5回	創傷管理およびドレーン管理				手術後の創部の観察方法およびドレーン留置中の観察と留意点に ついて学ぶ。				岡根 他	演習		
6回	ドレナージを必要とする人への援助とフィ ジカルアセスメント				消化器手術後の事例を用いて、グループワークをとおして消化器 系フィジカルアセスメントを行う。				岡根 他	演習		
7回	一次救命処置が必要な人への援助				意識状態の確認方法、胸部圧迫、気道確保、人工呼吸の方法を学 ぶ。また、自動体外式除細動器 (AED) による除細動の方法と留意 点を学ぶ。				長谷川 他	演習		
8回	救命処置が必要な人への援助				院内で急変した事例をとおして、中枢神経系フィジカルアセスマ ントを行う。				長谷川 他	演習		

9回	運動機能障害のある人への援助 身体機能評価	運動機能の評価方法および安全な療養環境の整備を学ぶ。	竹村 他	演習
10回	運動機能障害のある人への援助とフィジカルアセスメント	日常生活に支障のある事例を用いて、グループワークをとおして運動系フィジカルアセスメントおよび日常生活動作の援助を行う。	竹村 他	演習
11回	呼吸療法を必要とする人への援助	酸素供給システムと酸素ボンベによる酸素投与方法および口腔内、鼻腔内、気管内吸引の準備と方法、観察を学ぶ。	関根 他	演習
12回	呼吸療法を必要とする人への援助とフィジカルアセスメント	慢性閉塞性肺疾患（COPD）の事例を用いて、グループワークをとおして呼吸器系フィジカルアセスメントを行う。	関根 他	演習
13回	術後初回離床を行う人への援助	術後初回離床時の目的と方法を学ぶ。	山本 他	演習
14回	術後初回離床を行う人へのフィジカルアセスメントと援助	消化器手術後の事例を用いて、グループワークをとおして循環器系フィジカルアセスメントおよび初回離床の援助を学ぶ。	山本 他	演習
15回	総合演習	事例患者に対して必要なフィジカルイグザミネーションを行い、事例患者の身体状況をアセスメントし必要な看護技術を実施する。	関根 他	演習

学 習 課 題	
演習は、事前課題に取り組み臨む。以下に課題の概要を記載するが、毎回の授業終了時に次の課題の詳細を提示する。 事前課題に対する内容以外にも関連する事柄や疑問が生じた内容についても調べて、十分な自己学習がされたレポートを期待する。課題レポートは 毎回の授業終了後に講義室で回収し、各課題のルーブリック評価表における評価項目に沿って評価する。課題およびルーブリック評価表については、課題提示時に「Web Class」にアップロードする。	
1、2回目課題（事前）：栄養状態の評価方法および嚥下機能評価、嚥下機能に応じた食事介助方法	【評価対象：レポート】
3、4回目課題（事前）：輸液の準備、管理方法および中心静脈カテーテル留置中の観察。輸液ポンプとシリンジポンプの取り扱い方法	【評価対象：レポート】
5、6回目課題（事前）：手術後の創傷処置の方法と観察。また、腹腔内ドレーン留置中の観察とミルキング方法 消化器系フィジカルアセスメント	【評価対象：レポート】
7、8回目課題（事前）：一次救命処置（BLS）とは何か。意識状態の評価方法、胸部圧迫、気道確保、人工呼吸の方法、自動体外式除細動の使用 使用方法と使用時の留意点	【評価対象：レポート】
9、10回目課題（事前）：日常生活動作の評価方法と身体機能評価。転倒リスクのある人への車椅子への移乗方法と観察 運動系のフィジカルアセスメント	【評価対象：レポート】
11、12回目課題（事前）：酸素療法に使用するデバイスと各酸素濃度、酸素療法中の観察。酸素ボンベの残量計算方法 口腔内、鼻腔内、気管内吸引の方法と観察、呼吸器系フィジカルアセスメント	【評価対象：レポート】
13、14回目課題（事前）：術後初回離床の方法と観察、留意点 循環器系フィジカルアセスメント	【評価対象：レポート】
15回目課題（事前）：第1回～14回までの事前課題および演習資料の復習	

実務経験を活かした教育の取組
・担当教員全員は、看護師として実務経験、特に集中治療室をはじめとし周術期看護、老年期の看護の経験がある。また、看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義および演習を行う。